

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.35 2010.7.5

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006
URL [http:// kikusui-net.jp](http://kikusui-net.jp)



福まち通信

第一回高齢者ふれあい交流会開催



6月24日(木)午前10時、菊水地区会館で平成22年度第一回の「高齢者ふれあい交流会」が開催されました。平成17年の11月1日に最初の交流会が開かれましたので、これが丁度 11 回目になります。

生憎の雨模様にもかかわらず時間前から次々と参加者がつめかけ、受付当番である東連町女性部の

方々は嬉しい悲鳴を上げたのではないのでしょうか。

開会の冒頭、細野福まち推進センター運営委員長からの歓迎の言葉があり、併せて、開催趣旨やボランティアによって運営されているこの催しのあり方について説明がありました。



菊水劇団による寸劇

「介護保険サービスの利用手続きを知ろう」

白石菊子さんは今年82歳になります。菊水地区に住んで30年になりますが、10年前、夫に先立たれそれからずっと独り暮らしを続けています。最近、物忘れが目立つようになり、認知症の症状が出てきました。関節リュウマチによる膝や腰の痛みもあり、入浴もままならないようです。近くには妹の朋子や実の娘の秋子が住んでいて、菊子さんを心配してしょっちゅう訪ねてきます。

舞台はそんな菊子さんの家から始まります…という、第二包括支援センターの小関さんの流暢なナレーションから始まります。

第一場面 妹の朋子から日曜のゴミ出しと、分別の仕方をたしなめられる。新聞屋の集金予告の電話がかかってくる。



第二場面 娘の秋子が訪ねてくる。入浴頻度や、老人クラブの出席状況を尋ねるが、何も心配ないと答える。

第三場面 妹の朋子が来る。秋子が菊子は年金を下ろしに郵便局へ行ったと答えるが、本当は年金の支給月は

来月なのである。新聞の集金人が来る。菊子はいつも突然来ると文句を言う。

第四場面 二人は帰り道菊子のことを心配して話し合う。そこへ民生委員の山田会長が通りかかる。民生委員から介護保険サービスや包括支援センターについてのアドバイスがあり、関係先への連絡は私に任せてと頼もしい返事がある。

第五場面 菊子の方に包括支援センターの宮崎職員がやってきて、介護保険のサービス対象者の認定申請と、その結果として

の調査と審査の流れや、認定結果による各種保健サービス利用の方法などについて説明があり、会場の参加者にも「ミニ講話」がある。

第六場面 こうして約一カ月半後、菊子さんに認定結果が届き、介護保険のサービスが利用できるようになりました。早速ケアマネージャーと

相談して、週2回デイサービスに通うことになりました。

デイサービスの初日、嫌がる菊子さんをディの職員は上手に迎えのバスに誘導します。

さあ、元気に「いってらっしゃあ〜い」。めでたし、めでたし。





健康相談コーナー ここでは、区役所の保健師さんと包括支援センターと介護予防センターの職員による健康相談が行われました。日頃気になっている自分の健康状態を、生活状態チェックリストにより確認したり、血圧測定をしてもらっていました。



手作りコーナー 今回は涼しさを呼び込むうちわを作りました。折り紙で金魚やアサガオを作りうちわに貼り付けると、涼しげで、世界にただひとつの手作りうちわが出来上がりました。



趣味のコーナー 三々五々、囲碁や将棋で楽しみました。

ランチタイム 毎回ボランティアの人々の手作りのご馳走を頂きます。前日から仕込んだアブラアゲに寿司メシを詰めて、美味しいいな寿司が出来ました。そうめん汁やサラダが添えられ、それにバナナやお菓子のデザートつきです。白石区長さんと高川保健福祉部長さんが参加してくださいました。



今回も菊水上町の地域密着型老人ホーム「こまちの郷菊水」から5人のお年寄りが職員の介護つきで参加されましたが、沢山の参加者の皆さんと一緒に食事が出来たことを大変喜んで帰られました。



ショウタイム 今回は南京玉すだれとマジックショーの豪華二本立てです。最初は「ときわ小町」の二人組みによる南京玉すだれです。「さても南京玉すだれ…」という独特のリズムに乗り、華やかな衣装と元気なトーク、それに加えた変幻自在な妙技に酔いしれました。それに加えてクイズがあり、回答者には景品まで頂きました。



次は、「すみれ」さんのファンタジー・マジックショーです。軽妙なトークとリズムカルな演技。何も無いところから次々と現れるリボン。そのスピードトスリルに酔いしれました。



豊平川岸歩こう会



6月3日(木)菊水地区健康づくり実践会と菊水町内会連絡協議会主催による歩こう会が実施されました。

午前10時30分、水穂大橋の下に約150人の参加者が集まり、真鍋連合会長の挨拶の後、幌平橋めがけて一斉に歩き出します。手にはゴミ拾いのビニール袋を提げて途中のゴミを拾い、地域の環境美化に貢献



しました。

今年は、聴力障害がい者共同作業所「ほほえみ」の皆さん18名が参加しました。参加にあたり、皆さんの参加に怪我や事故などが生じないかと思案しましたが、施設の職員やボランティアの介護つきでなんら支障なく実行することができました。このことを通じて、この種の



イベント実施にひとつの学習をしました。曇天で実施が危ぶまれましたが、終点の幌平橋まではお天気が持ちイベントは成功裏に終了しました。

よつクロエッセー 鈴木 利勝

今回は菊水地区民生委員・児童委員協議会副会長であり、福まち広報編集委員の鈴木さんにご登場してもらいました。

朝早く、花火の音が鳴り響く。それはみんなが心待ちにしていた運動会実施決定の合図の音である。そうして、小学校六年生になる孫の最後の運動会の知らせでもある。それと同時に、私にとっては、妹への悔恨の想いが蘇ってくる音なのである。

私の妹は三歳年下で、生まれて間もなく小児麻痺に罹り不自由な体になった。毎年の運動会の度に、みんなが走り、踊っているのを黙って見ていなければならなかった妹本人は勿論のこと、それを見ている両親の気持ちを察するといつも心が痛んだものである。

確か妹が小学校高学年のころ、「兄ちゃんが大きくなったら、私の足を治してくれるんだって…」と、周りの人たちに言っていたことを思い出す。子ども心に、可哀そうな妹にそんな約束をしていたのだろう。そんな優しい気持ちを持ち、妹に声をかけていた時があったのだが、大人になるに従い仕事が忙しく時間が過ぎて現在に至っていることに悔いが残るのである。

妹は、中学卒業後、新設間もない札幌方面の高校に進学した。当時は地下鉄もなく東橋からバス通学をしており、雪の日などは相当苦労していたと思うが卒業まで頑張りとおした。

主治医が釧路に転勤したことで、その先生を追いかけていった釧路の病院で、今の夫となる人と出会い結婚して三人の子の親となった。そして孫にも恵まれ、幸せな生活を送っている。

妹は、子どもたちの運動会をどんな思いで見ているのだろうか。そして間もなく来る孫の運動会をどんな思いで迎えるのだろうか。

あれから五十年以上もたった今、運動会の合図の音を聞かされた時に妹のことを思い出す。「約束を果たせずにごめんよ。」と、そして、「長い間、よく頑張ったな。ごくろうさん。」と褒めてもやりたい。

編集後記

北海道の夏は冷夏だと誰かが言ってた。そいつは誰だと怒りたくなるほど暑い日が続いています。35号は「高齢者ふれあい交流会」特集号を送ります。平成17年の11月に第一回を開催して早いもので11回目になります。ボランティアの人々の熱い思いがいつまでも続きますように。

よつクロ編集員 枝元